

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 27 日現在

機関番号：82644

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 21 年度～平成 23 年度

課題番号：21591497

研究課題名（和文） 新規評価尺度による大うつ病性障害の臨床評価に関する研究

研究課題名（英文） A study on the clinical evaluation of major depressive illness by the Japanese version of the Inventory of Depressive Symptomatology, Clinician version.

研究代表者

稲田 俊也 (INADA TOSHIYA)

公益財団法人神経研究所・研究部・副所長

研究者番号：00184721

研究成果の概要（和文）：気分障害の経過中にみられるうつ状態の重症度を評価する目的で開発されたInventory of Depressive Symptomatology - Clinicians version (IDS-C)は、全30項目で構成され、各項目は0, 1, 2, 3の4段階で評価される精神症状評価尺度である。この研究では、観察者によって評価されるIDS-Cの日本語版を作成し、その評価者間信頼性を検証した。公益財団法人神経研究所附属晴和病院に入院中のうつ状態を呈していた患者14名（男8名、女6名、平均年齢55歳）を対象とし、これらの患者に対して、申請者らのグループが翻訳および逆翻訳を行って作成したハミルトンうつ病評価尺度併用のIDS-C構造化面接日本語版を用いて、精神科医2名の同席による評価面接を行った。IDS-Cの30項目のうち、全てのアンカーポイントについての重症度評価の検討が行われたのが27項目であり、残りの3項目は最重度を呈する症例の評価が存在しなかった。評価面接の一致率については、各評価項目の分散分析級内相関係数(ANOVA ICC)が0.85-1.0の範囲にあり、概ね良好な結果が得られた。評価が不一致がみられた例としては、1)症状の重症度や持続時間についての被験者の回答がアンカーポイントの重症度分類に当てはまらないケース、2)一つの症状が複数の評価項目の重症度評価で考慮できるケース、3)抗うつ薬によると考えられる症状の評価、等が挙げられた。本研究の結果から、IDS-C日本語版の評価者間信頼性はおおむね高い一致率が得られた。評価のばらつきが想定される症状項目の取り扱いを十分に検討し、十分な評価トレーニングを行うことにより、本尺度はうつ病患者の重症度を測定する有用な尺度であると考えられた。

研究成果の概要（英文）： The Inventory of Depressive Symptomatology, clinician version (IDS-C), was developed by Rush et al. to evaluate the severity of major depressive episodes. The aim of the present study was to establish the inter-rater reliability of the Japanese version of the IDS-C. A total of 16 subjects with DSM-IV major depressive episode were evaluated. Two psychiatrists, who had completed a training session for evaluating the IDS-C before starting this reliability study, attended systematic interview sessions with each subject to evaluate the IDS-C independently, using the Japanese version of the structured interview guide for combined rating of the IDS-C and the Hamilton Depression Rating Scale. The severity of the 30 IDS-C items assessed by the two raters ranged from 0 to 4 for 27 items and from 0 to 3 for 3 items. The analysis of variance intraclass correlation inter-rater reliability values for the individual scale items ranged from 0.874 to 1.000. The present results suggest that the Japanese version of the IDS-C is a potentially useful rating instrument with high inter-rater reliability for measuring the severity of depressive symptoms in the hands of psychiatrists with sufficient evaluation training.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 2009 年度 | 2,000,000 | 600,000 | 2,600,000 |
| 2010 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 2011 年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |

| | | | |
|----|-----------|----------|-----------|
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,600,000 | 1,08,000 | 4,680,000 |

研究分野： 医歯薬学

科研費の分科・細目： 内科系臨床医学・精神神経科学

キーワード： 精神薬理学，精神科診断学

1. 研究開始当初の背景

観察者によるうつ病の評価尺度としては、従来から広く使用されてきたHamiltonうつ病評価尺度 (HAM-D) に加えて、近年は Montgomery-Asberg うつ病評価尺度 (MADRS) などが用いられるようになってきている。しかし、HAM-Dは1960年に、またMADRSは1979年に開発されたもので、現在広く使用されているDSM-IV診断基準における大うつ病性障害の診断基準を網羅していないことに加え、HAM-Dでは①評価項目の階層化が均一でないため、総得点に不均衡が生じうる、非定型うつ病の特徴が評価項目に含まれておらず、また必ずしもうつ病に特徴的ではない評価項目が含まれている、③多様な構成概念が含まれる評価項目が存在する、④重症度を評価する測定基準が、一貫した概念に基づいていない、などが挙げられている。米国ではこれらの状況をふまえて、広く活用されているHAM-DをプロトタイプとしたDepressive Symptomatology- Clinician Rating (IDS-C) が開発された (Rushら, 1986,1996)。IDS-Cは、全部で30項目で構成され、各項目は0, 1, 2, 3の4段階で評価される精神症状評価尺度である。DSM-IVの大うつ病性エピソードの診断基準Aに含まれる9項目が網羅されるように項目がHAM-D項目に追加され、このほか、不安／易刺激性といったうつ病に関連する症状や、非定型／メランコリー型の特徴など大うつ病性障害の特徴を同定するための評価項目も含まれるようになっている。この尺度は、近年、米国における検証型アルゴリズムプロジェクトSTAR*Dなどのうつ病における大規模臨床試験において用いられている。申請者はMADRS日本語版やヤング躁病評価尺度日本語版 (YMRS) の開発に加えて、HAM-Dやパニック障害重症度評価尺度 (PDSS) などのトレーニングDVDの開発を行い、これらを活用して気分障害圏や不安障害圏の評価面接による重症度評価の標準化とそれに関連した臨床評価に関する研究を集積してきた。これらの経験と研究集積を利用して、今回は最初に記したようなうつ病の臨床評価に関する現状を

ふまえて、申請者は原著者の承諾を得てIDS-C日本語版の開発に取り組み、原著者が来日した際の打ち合わせおよび数回のメールによる検討打ち合わせにより、IDS-C日本語版の翻訳を確立したところである。今後この尺度を真に臨床で活用できるようにするためにはさまざまな臨床薬理学的研究による検証が必要な状況である。

2. 研究の目的

本研究では、DSM-IV 診断基準による大うつ病性障害の臨床評価がわが国において適切に行えるようにする目的で、うつ病症状学尺度 (Depressive Symptomatology- Clinician Rating, 以下 IDS-C) の日本語版を作成し、その評価者間信頼性を検証するとともに、あわせて、この尺度を用いて大うつ病性障害患者の治療経過をみた場合における疾病基準、寛解基準、反応性基準などの設定とその有用性の検証を行うこと、またこれを用いてわが国における大うつ病性障害の症候学的臨床特徴や精神薬理学的特徴を明らかにするとともに、大うつ病性障害の次世代の評価尺度としてふさわしい評価・診断プロセスの開発につなげられるような提言を行うことを目的としている。

3. 研究の方法

IDS-C 日本語版評価尺度の評価者間信頼性及び試験再試験信頼性を検討する。対象は文書及び口頭で研究の主旨を十分に説明し同意の得られた公益財団法人神経研究所附属晴和病院に入院中のうつ状態を呈していた患者14名 (男8名, 女6名, 平均年齢55歳) を対象として、準備した構造化面接を用いて、2名以上の精神科医師が同席して面接による同じ評価を行い、これらの患者に対して、申請者らのグループが翻訳および逆翻訳を行って作成したハミルトンうつ病評価尺度併用のIDS-C 構造化面接日本語版を用いて、精神科医2名の同席による評価面接を行った。一致率の低い項目がみられた場合には不一致の原因について評価者間で検討を繰り返して、信頼性が確立できるような評価基準についての統一見解を見出し、評価者間信頼性の確立を試みた。

4. 研究成果

IDS-C の 30 項目のうち、全てのアンカーポイントについての重症度評価の検討が行われたのが 27 項目であり、残りの 3 項目は最重度を呈する症例の評価が存在しなかった。評価面接の一致率については、各評価項目の分散分析級内相関係数 (ANOVA ICC) が 0.85 - 1.0 の範囲にあり、概ね良好な結果が得られた。評価に不一致がみられた例としては、1) 症状の重症度や持続時間についての被験者の回答がアンカーポイントの重症度分類に当てはまらないケース、2) 一つの症状が複数の評価項目の重症度評価で考慮できるケース、3) 抗うつ薬によると考えられる症状の評価、等が挙げられた。本研究の結果から、IDS-C 日本語版の評価者間信頼性はおおむね高い一致率が得られた。評価のばらつきが想定される症状項目の取り扱いを十分に検討し、十分な評価トレーニングを行うことにより、本尺度はうつ病患者の重症度を測定する有用な尺度であると考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① Yamamoto N, Kawakami S, Sato K, Takimura T, Inagaki A, Inada T: The inter-rater reliability of the Japanese version of the Inventory of Depressive Symptomatology, Clinician version. Hum Psychopharmacol Clin Exp 26: 267-269, 2011.
- ② 山本暢朋, 稲田俊也: プライマリケアにおけるうつ病の評価尺度の有用性. 日本医師会雑誌 138(11): 2284, 2010.
- ③ 稲田俊也, 佐藤康一, 山本暢朋, 瀧村 剛, 稲田貴子, 稲垣 中, 中根 允文: HAM-D /IDS-C 併用評価用構造化面接 日本語版 ver.1.0. In: 稲田俊也 (編集): STAR*D 研究の臨床評価バッテリー[CD], 社団法人日本精神科評価尺度研究会, 東京, 2009.9.25.

[学会発表] (計 1 件)

- ① Yamamoto N, Tomomatsu S, Sato K, Takimura T, Inagaki A, Inada T: The inter-rater reliability of Inventory of Depressive Symptomatology - Clinicians of the Japanese version. 第 19 回日本臨床精神神経薬理学会・第 39 回日本神経精神薬理学会合同年会, 1st Asian Clinical Neuropsychopharmacology, 2009 年 11 月 13-15 日.

[図書] (計 1 件)

- ① 稲田俊也 (編著), 稲田俊也, 山本暢朋, 佐藤康一, 藤澤大介, 稲垣 中 (著): 大うつ病性障害の検証型治療継続アルゴリズム STAR*D (sequenced treatment alternatives to relieve depression): その臨床評価とエビデンス. 星和書店, 東京, 2011 年 6 月 8 日.

6. 研究組織

(1)研究代表者

稲田 俊也 (INADA TOSHIYA)

公益財団法人神経研究所・研究部・副所長
研究者番号: 00184721

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号: